

—生きることは分かち合うこと、弱者と—

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
154
2023.12
公益財団法人PHD協会

個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

—特集—
P.2-5

REPORT ミャンマー出張レポート ・フォローアップ

2019年以來となるミャンマー出張
が実現しました。
元研修生たちが懸命に生きる「今」
をお届けします。



Contents

- P.2-5 ミャンマー出張レポート・フォローアップ
- P.6 PHD Movement vol.37
ミャンマー、「不安定の中の安定」
- P.7-10 2023年度研修生レポート
アギーさん/助産師/インドネシア

- P.11 居住支援事業報告
国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」便り
- P.12 タブコラ事業報告 ブックレット
『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』
- P.13 2023年度多文化共生インターン紹介
2024年度研修生のホストファミリー募集
- P.14 PHD活動紹介 2023年7月～10月
- P.15 PHD News



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 154号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒653-0836
神戸市長田区神楽町3丁目7-4
電話：078-414-7750
F A X：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org/
U R L：http://www.phd-kobe.org/
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会
01110-6-29688

思いやりと我慢が世界平和につながる

温故知新 岩村語録 その26

私たち先進国のみんなが、毎日の生活の中で「食いたい」「買いたい」という欲望を抑え、その「我慢」した分を、発展途上国の人たちのために還元していくこと、それが世界平和を考える上で何よりも大切なことだと思うのです。

「共に生きるためにーアジアの医療と平和ー 岩村昇著（1982年）P25」



約40年前の文章だが、今に通じると思う。ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナ、そしてイスラエルとパレスチナ。悲劇の根底に「〇〇したい」という欲望を感じる。今や先進国だけでなく、この宇宙船地球号に乗る一人一人が心がけないといけない岩村先生の言葉。戦争は悲しみが生まない、war is over。(さ)

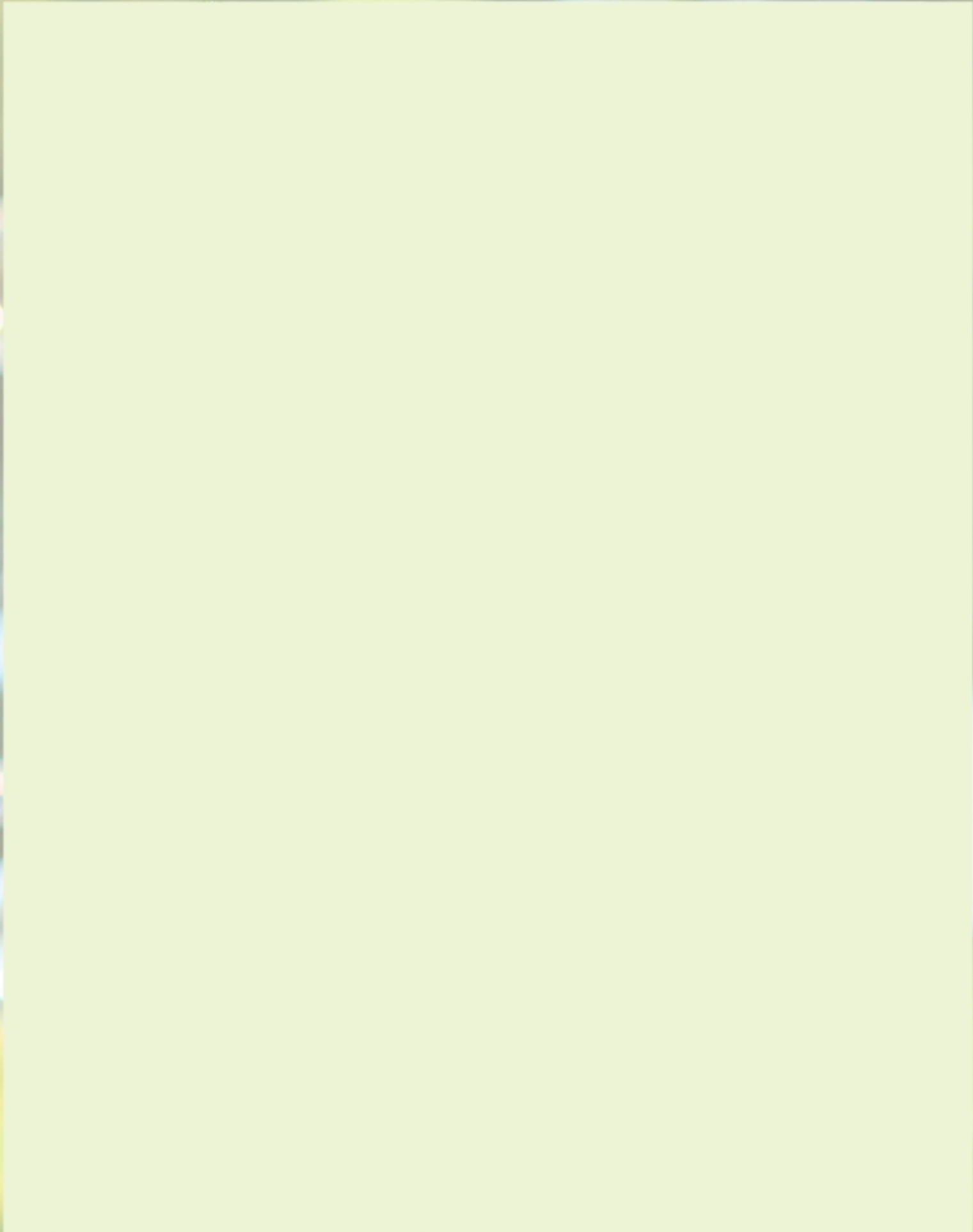
REPORT 

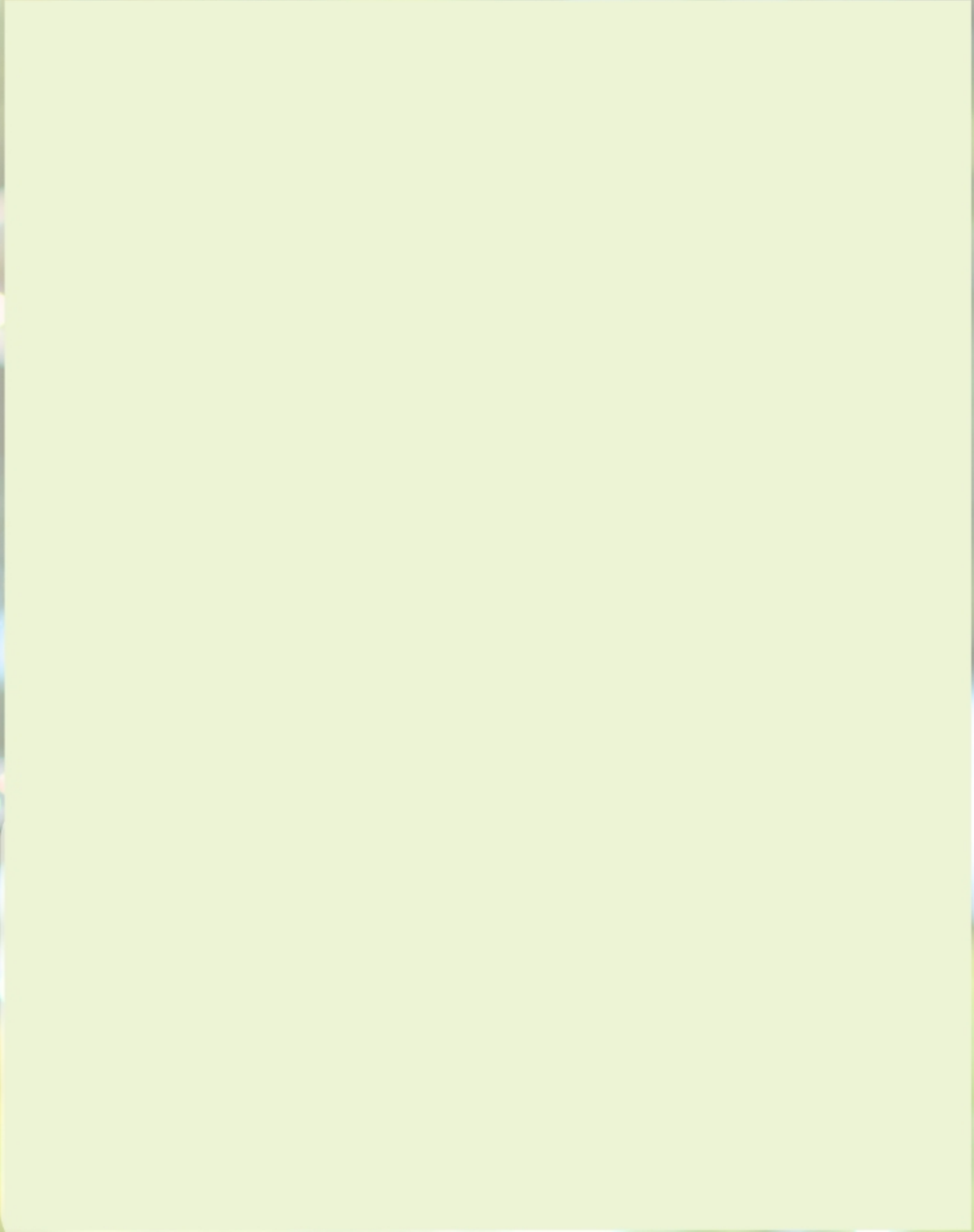
ミャンマー出張レポート・フォローアップ

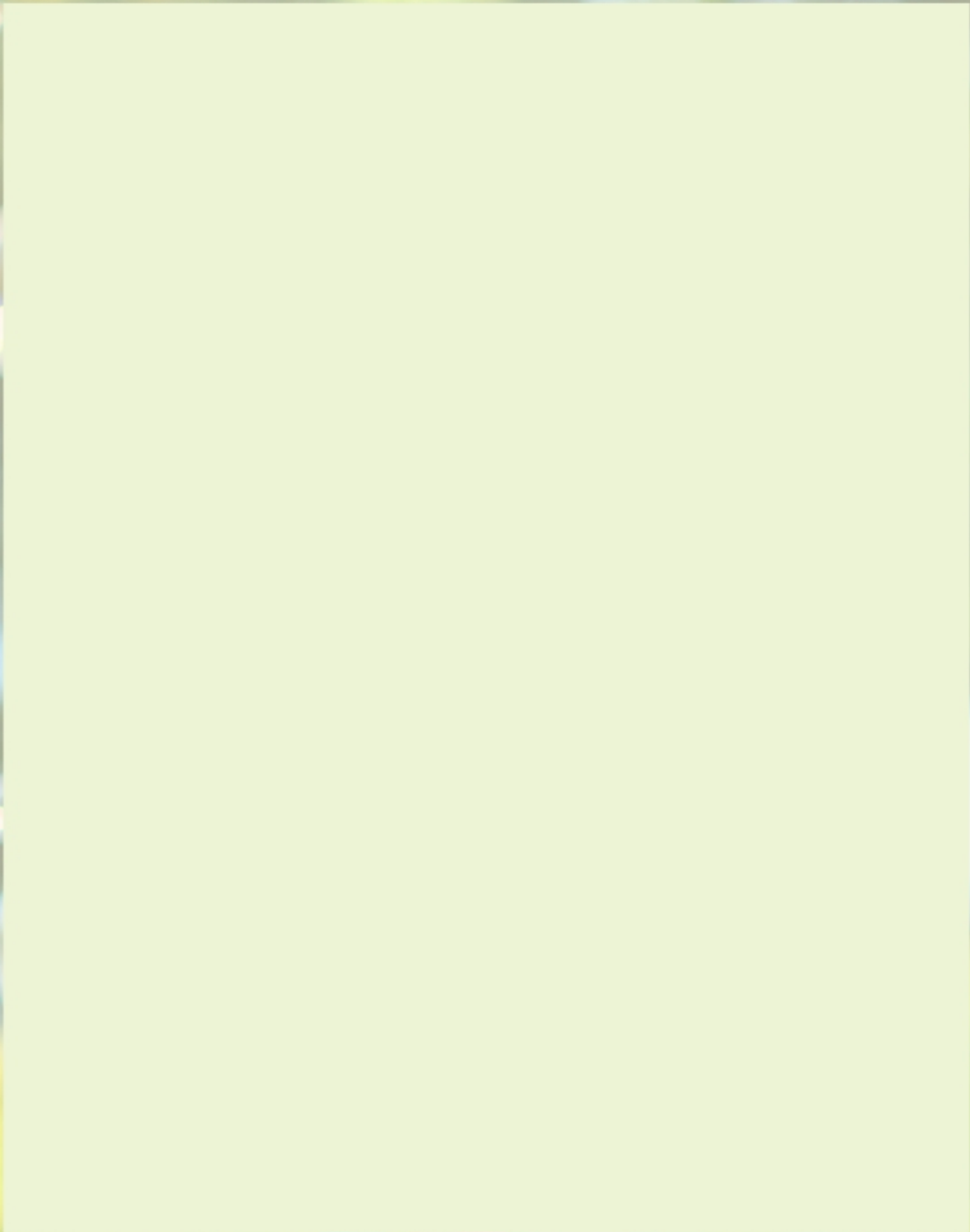
2019年以來となるミャンマー出張が実現しました。短い滞在であったので、それぞれとじっくりと話すことは難しかったのですが、できるだけ多くの元研修生たちの「今」を追いました。それぞれ4年前とは状況が変わりつつも、「今」を懸命に生きていました。ミャンマーの希望をお届けします。

坂西卓郎、濱宏子、田村華奈＝文









ミャンマー、「不安定の中の安定」

都会の賑わいと貧困率の増加

4年ぶりにミャンマー出張が実現した。現地の状況が掴めなかったのが短期滞在であったが、強く感じたのは「不安定の中の安定」だった。依然として状況は厳しいものの、一見すると市民生活は平穏で、特に都会の中心部は車が急激に増え、レストランも活況のようだった。今まではあまり見なかったフィットネスジムやカフェも目立っていた。円安をはるかにしのぐチャット安にも関わらず、だ。

他方で経済成長率がコロナ前6~7%だったものが、2%代に落ち込み、貧困率（1日1.17ドル以下で生活する人の割合）も46.3%に増加するなど状況は切迫している。この数字は約20年前のミャンマーの数字とほぼ同じである（2005年48.2%）。国連の推計によると「貧困層の間で食料不足の問題などが生じており、国民の3人に1人にあたる約1,760万人が人道的な支援を必要としている」とされている。

そういった二極化、まだらの中で感じたのが「不安定の中の安定」だった。危ういバランスでの綱渡りだがなんとか耐えられるイメージ。2000年代のミャンマーが思い出され、同時にこの状況が長期化していくという可能性を感じた。場合によっては暗く長いトンネルの再現となりかねない。

※追記。10月27日から少数民族武装勢力などによる北部同盟の「1027作戦」が開始され、内戦が激化している。よって「不安定の中の安定」が崩れ去り、再度市民の日常生活が混沌としている。


ミャンマーの未来のための人づくり

上記のような状況の中でPHD協会はどうしていきべきか。大きな方針としては「ミャンマーの人たちと共に歩む」を維持する。その上で今こそ「ミャンマーの未来のための人づくり」に注力したい。誌面では詳細は書きにくい、混迷しているからこそ地に足をつけた人への投資が必要だと思われる。

具体的にはミャンマーには全国に困窮家庭の子どもが通う寺院の孤児院がある。元研修生でいえば2018年度のモーモーさんは今も孤児院で先生として活躍している。貧困層の増加が進む中で孤児院の役割も増している。そういった孤児院で働く先生たちは薄給で、モーモーさんのように365日24時間体制で子どもたちと生活を共にする方も多く、多くの子どもたちの未来を支えている。PHD協会は10年後、20年後のミャンマーを見据えて、地道に未来の担い手育成を続けていきたい。

来年度の研修生は孤児院の先生

そして2024年度の研修生はまさに約500人の孤児が生活する孤児院で先生として教育を担い、孤児たちの食事のお世話もしている女性を招聘する予定である。彼女自身も実家が困窮し、幼くして孤児院にやってきたそう。助けてくれたご住職への感謝を胸に、子どもたちとの日常を生きている。日本での研修が、多くの子どもたちの成長へと繋がる。パレスチナ・イスラエル、アフガニスタン、世界がこういう状況だからこそ「平和と健康を担う人づくり」に未来があると信じて研修事業を続けていきたい。

アギー・ラミダ・プットリ 

助産師 / インドネシア



助産研修で奈良を訪ねたアギーさん

4月～10月研修

神戸YMCA学院専門学校（日本語/神戸市）
 喜多野クリニック（訪問看護同行/奈良市）
 はらっぱ保育所（保育/西宮市）
 澁谷助産院（助産/福岡市）
 奈良医科大学（講演/橿原市）
 京都医師会看護専門学校（講演/京都市）
 むすび助産院（お産を語る会/向日市）
 國本助産院（助産/神戸市）
 長崎理恵さん（日本語/神戸市）
 秋山助産院（助産/神戸市）
 あゆみ助産院（講話/京都市）
 まある助産院（助産/京都市）
 カンガルーホーム助産院
 （助産/生駒郡平群）

研修先の皆さま
 多大なご理解とご協力を、
 誠にありがとうございます。



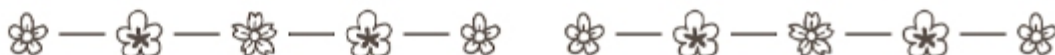
アギーさんの研修について

アギーさんはタベ村の助産師として既に2年の経験があります。今回は助産を研修目的として来日し、日本語習得以降、九州に京都に奈良に、汗をかきながら助産院を巡り、日本ならではの助産を学んでいます。特に妊婦検診、エコーを使っただけの診察、妊婦さんが出産までに受けるたくさんの検査には大きな違いがあるようです。日々が驚きや感動、そして大きな学びの連続です。

研修担当 濱からのエール

研修では、アギーさんが実際に妊婦さんと関わらせていただく機会も度々ありました。そんな命の現場に直面するアギーさんを間近に見て、彼女の強さに時には感心し時には驚かされました。その度に「ああそうだ、彼女は既に150人の赤ちゃんを取り上げた助産師だった」と我に返ります。

助産師とは女性の健康を守る大切なお仕事です。妊娠・出産・産前産後・性教育まで、助産師は女性に寄り添います。日本の助産のシステムとインドネシアのそれには勿論違いはありますが、命を愛おしみ育む事には変わりはありません。それぞれの助産院でそれぞれの特色を学び、村での助産に活かせるならこんな素晴らしい事はありません。特にインドネシアで求められる健康的な食事による妊婦高血圧の改善などは研修後半の課題かと思えます。持ち前の探求心と鋭い感性で今後の研修においてもたくさんの学びを得てほしいと思います。アギーさんの挑戦は続きます。



Aggy's report



助産について

日本にきてやく6-かげつが経たぬわたくしはこれまで、ほくえんやじょせんいんやしょうがこしやケアセンターなど、おおくのばしょをおひざれべんきょうしてきました。おうではわたくしはじょせんしとしはわらいています。

日本ではいろいろなじょせんいんでべんきょうするたわにきました。日本のじょせんいんとおらのじょせんいんがちがいます。日本では2-じかんくらいにんがけんさをします。にんがせんはせむつけんさをうけます。けんさのあとにんがせんはいろいろなこをわたくしにおしえてくれました。せむつこのこ、しよくじのこ、いえのこ、こどもたちのこすべてじょせんしさんとはずします。

おうではしせつががびられてくるたわにんがせんはせむつけんさをうけられせん。たえにおうではせむつけんさをうけないとあかぢんにはんがひょうきかあるかわからぬ、うまれたときたいへんです。

日本ではじょせんしかせむつけんさをします、エコーもどがびます。日本ではほとんどみんが

にんがせんがエコーけんさをうけています。おうではエコーけんさをしたのにはあひは3-じかんくらいかかるひょういんはいかたければなりません。

日本でのしよせんについて、じたくでも、じょせんいんでも、ひょういんでもひきます。しよせんしたらおあぢんとあかぢんはじょせんいんで5日かんくらいケアされます、たからたくさんのけんさをうけることかできます。

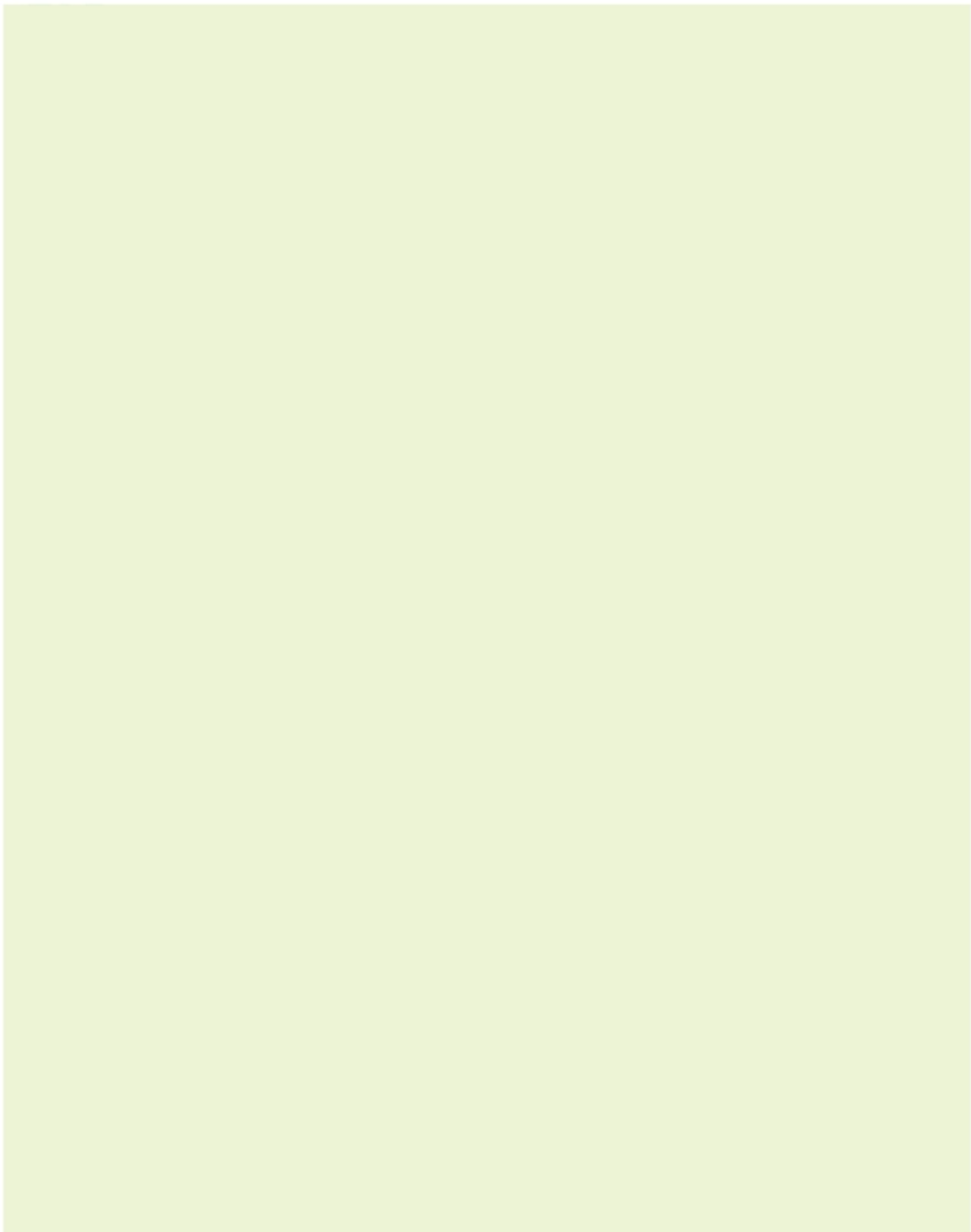
おうではうまれたあと6-じかんであるといえにかえります、2日かんさんごのおあぢんとえにさんごケアにひきます。どちらいとおあぢんがたくせんけんさできることはいひます。

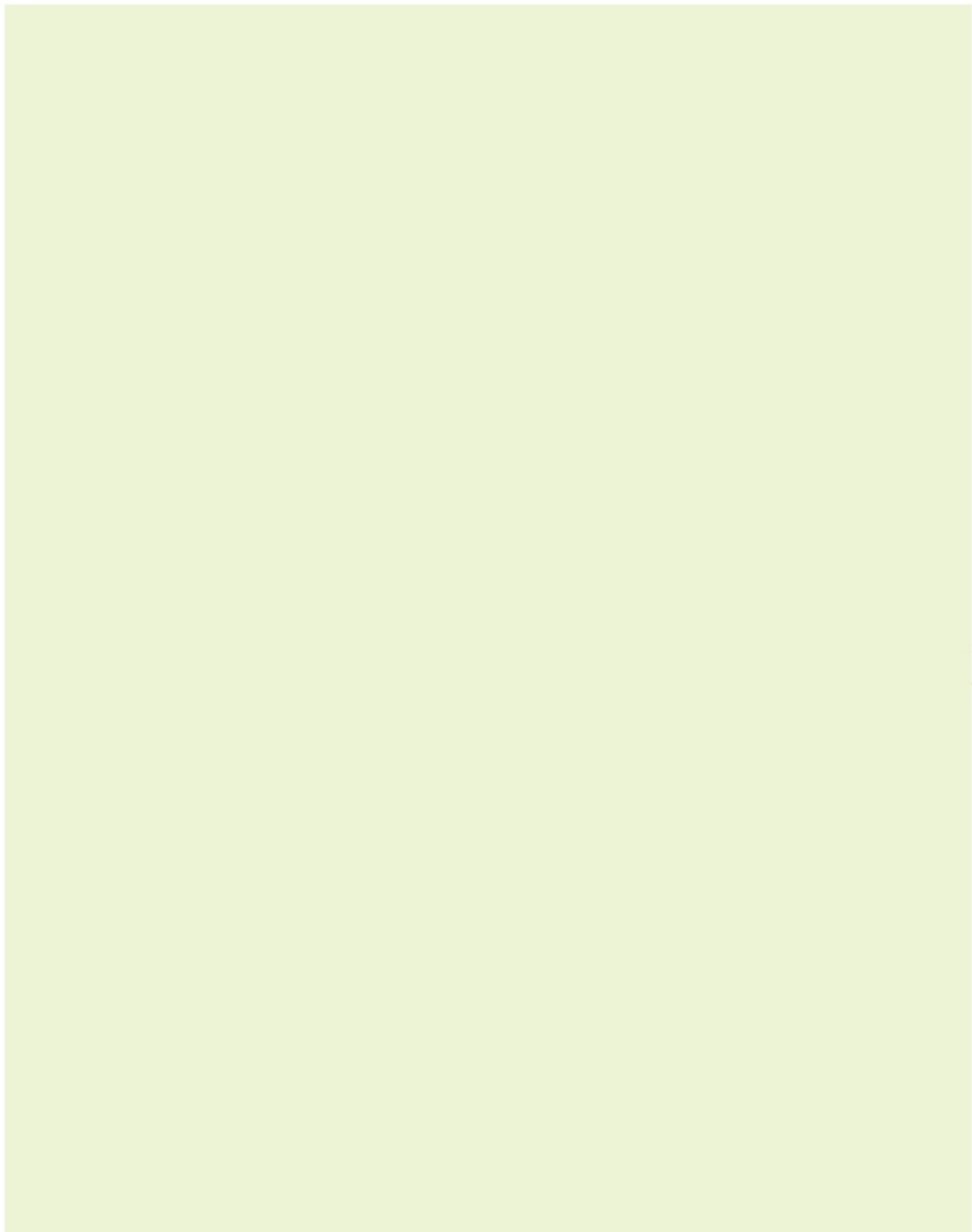
わたくしはおうにかえったらじょせんいんをつくりたいとおもいました。日本どまんだすべてをおらのたわにいかしたいとおもいました。わたくしがまんだこにかたべおらのひびひにやくたつことをわがっています。インドネシアにかえるまで、もっとじょせんしのべんきょうをがんばります。

帰国後について

アギーラミダフットリ
インドネシア







居住支援事業報告

居住支援担当 田村華奈=文

PHD協会では、生活にお困りの外国人の方を対象に居住支援や就労支援、日本語学習支援、生活相談、食料配布などを実施しています。上半期は、特に仮放免中の方や難民申請者、失踪してきた技能実習生、アフガニスタンやウクライナ避難民の方々への支援に注力しました。また、多くの外国人の方たちに当会の存在を知ってもらい、緊急時に頼ってもらえるようなセーフティーネットとなることを目指し、定期的な食料配布会も開始しました。本稿ではこれらの活動のうち、下記の二つについてご報告します。

アフガニスタン避難民の家族が来日

2021年にタリバンが政権を掌握したアフガニスタン。当時、ハジさん（仮名）は家族を残し、心を痛めながら日本に避難してきました。そのハジさんの家族が8月に来日し、現在はハジさんに加え、妻のリリさん（仮名）への週3回の日本語指導や子どもの幼稚園入園に関わるサポート等を行っています。

未だに女性の権利が制限されるなど、厳しい母国の情勢に憤りを見せつつも、「生活に慣れ、日本語が上達したら仕事もしたい」と語るリリさん。少しでも不安を和らげ、安心して日本で暮らせるよう寄り添い、伴走していきます。



食料配布会の実施

10月に開催した第1回食料配布会では、企業やフードバンク関西、個人からの寄贈に加え、赤い羽根共同募金の助成金*を活用し、食料や生活物資を計48名の方々に届けることができました。主な参加者は、神戸市長田区の日本語学校で学ぶネパール、ミャンマー、バングラデシュの留学生たちでした。

物価高騰中の日本で苦勞している留学生の一人は、「学費や家賃の支払いが大変で食べ物は中々買えない」と話していました。今後も定期的な食料配布会の開催を通して、近隣の外国人の方々との関係を構築していけるように努めます。



*赤い羽根共同募金 居場所を失った人への緊急活動応援助成 第6回



国際交流・協力シェアハウス「みんなのいえ」便り



インドネシアからの仲間達

春の風吹く頃、珍しくインドネシア出身者が5人も顔を揃えたシェアハウスみんなのいえ。故郷の言葉が飛び交う幸せな時間です。畜産や漁業などの実習先から逃げてきたそれぞれの辛い事情を語り合いながらも、束の間の同居生活を楽しむ彼ら。向かう先は違いますが、それぞれの幸せなゴールを目指します。PHD協会もそんな彼らの未来を全力で応援します。ここを巣立ったみんなは、今もそしてこれからもみんなのいえの大切な仲間です。またここに笑顔で集まれる日を待っています。

みんなのいえ施設長 濱宏子=文





タブコラ事業報告

ブックレット『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』

総務・ファンドレイジング担当 中村朱里＝文

前号のPHD Movementでご紹介したJICA-NGO等提案型プログラム「兵庫発！多文化共生のための市民社会とビジネスセクター連携構築プログラム－外国人労働者とのより良い共生に向けて－」が、今年8月に終了しました。

本事業で実施した兵庫県三田市での活動の一環として、ブックレット「兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪」を刊行しました。本書は、三田市社会福祉協議会と三田市国際交流協会の協働の取り組みを軸に、外国人支援における社会福祉分野と多文化共生分野の連携の現状と課題、先進地の事例を紹介しています。概要は下記をご覧ください。

他地域の国際交流協会の方に三田市での取り組みについてお話したところ、「どうやって社会福祉協議会と繋がれるんですか？」「うちも社会福祉協議会と繋がりたい」という声をいただくことができました。社会福祉分野でも、コロナ禍を機に外国ルーツの住民の存在がよりはっきりとみえるようになり、以前よりも多文化共生に対する意識が高まっているようです。

社会福祉や多文化共生に関わる団体や専門家、市民の方たちが、様々な地域で互いの強みを生かして協働していけるよう、本書の内容が少しでも参考になれば幸いです。本書の電子書籍版は、当会ホームページからダウンロードいただけます。ぜひご活用ください。

URL：<http://www.phd-kobe.org/tabucolla/>

ーブックレット概要ー

- タイトル：「兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪」
- 仕様：A4判、70頁、フルカラー
- 編集・監修：日比野 純一、吉富 志津代
- 発行：公益財団法人PHD協会
- 発行日：2023年8月1日
- 内容：
 1. 多文化共生と社会福祉 連携の現状と課題を整理する
 2. 三田市における連携の取り組み ホップ、ステップ、ジャンプ
 3. 先進地域の連携事例と多文化ソーシャルワーク
 4. 提言 ー未来図ー
 5. 資料編（三田市 社会福祉×多文化共生 連携セミナー「社会福祉における外国人支援～分野を横断した支援体制づくりのために～」、掲載誌）



こちらから
ダウンロード
できます！



本書は「外国人」がテーマですが、地域には様々な人たちが暮らしています。多分野の団体や専門家、そして市民がまちづくりに参画することで、外国人だけでなく全ての人が暮らしやすい社会をつくっていけるのではないかと。そんな想いを表紙デザインに込めました。

（表紙デザインは三田市在住の漫画家・宮舘みえりさん）

2023年度多文化共生インターン紹介



フランスのグルノーブル・アルプ大学
敷地内にある山のモニュメント前にて

竹添 礼菜 Rena Takezoe


皆さまはじめまして！7月より多文化共生インターンとしてお世話になっております竹添礼菜です。宮城県出身で、大学卒業までは宮城にいましたが、大学院進学を機に関西まではるばるやってまいりました！高校生の頃より難民問題に関心があり、将来は世界中で脆弱な立場に置かれている人々に寄り添う支援を行う仕事に就きたいと思っています。現在は神戸大学大学院国際協力研究科にて、難民法について研究しており、学部時代はマレーシアで難民の子どもを支援するボランティア活動を、昨年は交換留学で渡仏を経験しました。PHDでは世界に様々なアクターがいる中で、NGOという立場で人々に寄り添う、草の根の支援の在り方について学んでまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！



他己紹介

広報・啓発担当 井上遼香

事務所に入ってくる時の挨拶の声为谁よりも大きいパワフルな礼菜さん！東北出身の彼女は酒豪でムードメーカー的存在ですが、難民問題の話になると目つきが変わり、知識が豊富で、大変優秀な女性です。将来は国際機関で働くことを夢見る彼女がPHDのような草の根レベルの活動をするNGOを知ってくれることは未来への希望です。普段は事務作業や居住支援補助を担当しており、仕事ぶりはとても丁寧で信頼できる存在です。今後の活躍にも期待しています！


 2024年度研修生のホストファミリーを募集します！

この度、2024年度第40期研修生のホストファミリーを募集いたします。
PHD協会は今まで多くのホストファミリーの皆さまに支えていただきました。
アジアからの研修生を受け入れて、国際交流してみませんか？

このような方々がホストファミリーになってくださっています！

- ＊使っていない部屋があり、海外にも興味があるので受け入れしてみたい！
- ＊国際交流を通じて国際社会に貢献したい！
- ＊国際交流を通じて視野を広げたい！
- ＊子どもに国際交流してもらいたい！



リザさん/20歳/インドネシア
研修内容：農業、協同組合

期間

2024年4月中旬～2025年3月中旬の約1年間。（短期相談可）
来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は月平均1週間～10日程度。研修内容により変動があります。

経費

当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件

当会事務所（神戸市長田区）から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。

研修生の1年間

- 4月 日本語学校の授業開始
来日直後は日本語が話せません。
現場研修開始に向けて日本語を勉強します。
- 6月 来日報告会
支援者の皆さまに直接ご挨拶。
勉強した日本語で一生懸命スピーチをします。
- 7月 現場研修開始
いよいよ各自の専門分野の勉強が開始します。
関西圏を中心に全国各地へ研修しに行きます。
- 11月 東日本研修旅行
2月 西日本研修旅行
PHD活動を応援してくださっている支援者の皆さまに御礼と活動報告をしに行きます。
- 3月 帰国報告会
支援者の皆さまに1年間の成果報告とお別れの挨拶を。毎年、涙の報告会です。

◆お問い合わせはPHD協会まで◆
TEL：078-414-7750
E-mail：info@phd-kobe.org



PHD 活動紹介 2023年7月～2023年10月

7月

- 3日 神戸学院大学 講義
- 4日 インドネシア出張（～10日）
- 10日 NGO神戸外国人救済ネット運営委員会
- 11日 NGO・外務省定期協議会「2023年度第1回連携推進委員会」
- 13日 フードバンク関西食料支援受取り
- 14日 まどろ交流会（NPO法人ESUNE/まなびと等）
- 19日 職員研修：メタ・ファシリテーション研修（講師：中田豊一さん）
神戸新聞取材
- 22日 神戸YMCA国際委員会
- 23日 2023-24年度 米山記念奨学セミナー及び交流会
まなびと講演会Daycamp 講演
- 24日 第20回多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー運営委員会
- 25日 国際協力NGOの成長についての調査研究 来訪
- 26日 RINK例会：入管法改正条文解説 参加
定例スタッフ会議
- 27日 JICA関西市民参加協議会 来訪
- 28日 難民事業本部 来訪

8月

- 2日 篠山ロータリー例会 参加
- 3日 第20回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（～4日） 共催
- 4日 川西ロータリー例会 参加
NGO-JICA協議会 多文化共生部会
神戸市産学連携推進課 協議
- 7日 「新移民時代型支援ネットワーク構築事業」緊急連続セミナー 参加
- 8日 R5居住支援委員会拡大会議
真生塾 訪問
- 9日 NGO-JICA協議会 多文化共生部会
兵庫警察 来訪
- 10日 NGO-外務省定期協議会全体会議
フードバンク関西食料支援受取り
職員研修：メタ・ファシリテーション研修（講師：中田豊一さん）
- 16日 「多文化共生」を考える研修会2023
HYOGON運営委員会
- 20日 ミャンマー出張（～25日）
- 28日 定例スタッフ会議
- 29日 外国人防災リーダー育成研修 参加



インドネシア出張
元研修生たちと集合写真



ロータリー米山記念奨学会
研修生活動報告の様子



関西学院高等部
講演の様子（チェリーさん）



タブコラブックレット完成報告会
集合写真

9月

- 1日 株式会社メロディー 来訪
- 2日 ユースゼミ会 交流会
- 3日 加東市連合婦人会 交流会
- 4日 JICAウクライナ避難民支援調査
長田警察 来訪
- 5日 真正塾 訪問
- 7日 キーフDIYプログラム 参加
国際協力推進セミナー 世界とつながる地方自治体 参加
- 8日 NGO-JICA協議会 多文化共生部会
三田市国際交流協会 在住外国人のための就労支援セミナー 参加
- 11日 NGO神戸外国人救済ネット運営委員会
- 12日 ブックレット「社会福祉×多文化共生ひろがる支え合いの輪」完成報告会
神戸YMCA 第40回評議員会
- 13日 NGO-JICA協議会 多文化共生部会
- 14日 キーフDIYプログラム 参加
- 15日 川西ロータリー例会 参加
- 16日 米山記念奨学生・カウンセラー合同ミーティング 参加
- 17日 フリーヘルプ板宿店 訪問
- 18日 コープこうべ フードドライブ譲渡会&交流会
- 19日 神戸YMCA国際奨学生面接
職員研修：ミャンマー勉強会（講師：事務局長 坂西卓郎）
- 20日 HYOMIC幹事会
- 21日 フードバンク関西食料支援受取り
- 23日 尼崎北ロータリークラブ60周年記念式典 参加
- 26日 定例スタッフ会議
- 27日 JOCA 沖縄研修 参加（～29日）
- 30日 加古川ロータリークラブ50周年記念 参加

10月

- 1日 アジャントさん（1988年度研修生） 来訪
- 4日 キーフDIYプロジェクト 参加
- 5日 アーユス井上回さんとともに考える国際協力NGOの魅力 参加
- 6日 NGO-JICA協議会 多文化共生部会
ワンフェスユース・アドバイザーグループ定例会
真生塾 来訪
- 10日 大阪Y'sメンズクラブ例会
- 11日 PHD協会食料配布会
阪神自動車航空鉄道専門学校 来訪
- 12日 ワタシたちハニングエンダ上映会 参加
- 15日 ポストコロナ時代の「新しい支え合い」のカタチ 参加
- 16日 NGO神戸外国人救済ネット運営委員会
令和5年度多文化共生の担い手連携促進研修会
兵庫県環境整備公社 来訪
- 18日 職員研修：支援論（講師：事務局長 坂西卓郎）
- 19日 キーフDIYプロジェクト 参加
関西学院大学 講演
フードバンク関西食料支援受取り
- 20日 難民事業本部 来訪
NGO-JICA協議会 多文化共生部会
三菱金曜会 次世代リーダー研修会
多文化フェスティバル 参加
定例スタッフ会議・2023年度事業振り返り
- 25日 関西学院高等部 講演
- 26日 Homedoor 訪問
スマイルネット 来訪
- 30日 全日本自動車産業労働組合総連合会 訪問
ユニセフハウス 訪問
日本労働組合総連合会 訪問
- 31日 ロータリー米山記念奨学会 訪問
山梨英和中学校高等学校 訪問
山梨YMCA 訪問

PHD News

📢 連合、自動車総連の皆様へ感謝！

今年も日本労働組合総連合会様から「愛のカンパ」と全日本自動車産業労働組合総連合会様から「福祉カンパ特別寄贈」をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。10月末には研修生と訪問し、活動報告をさせていただきました。



日本労働組合総連合会様



自動車産業労働組合総連合会様

📢 研修事業担当（総合職）職員1名募集！

2024年4月より研修事業担当（総合職）として勤務していただける職員を募集します。PHD協会の根幹である研修事業を担う、やりがいのある業務を担当していただけます。募集説明会は随時実施いたします。関心のある方、ぜひご参加ください！



職員募集要項は
こちら！

<http://www.phd-kobe.org/recruitment23/>

📢 2024年度研修生のホストファミリー募集！（P.13も是非ご参照ください！）

期間： 2024年4月中旬～2025年3月中旬の約1年間。（短期相談可）
来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は月平均1週間～10日程度。研修内容により変動があります。

経費： 当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件： 当会事務所（神戸市長田区）から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。



リザさん
女性 20歳
インドネシア



イスラエル・パレスチナ情勢に一言 〇月×日のPHD協会

チェリー ミャンマーも大変だけど、パレスチナはもっと大変。子どもたちも死にます。とても残念です。世界は何をしますか？

中村 村上春樹さんのエルサレム賞受賞スピーチ「壁と卵」に共感。「システム」という壁を作ったのは私たち。脆い卵に寄り添う活動がしたいと願う。

アギー あれは戦争ではなく大量虐殺。子どもがかわいそう。イスラムの私としてはとても悲しい。イスラムの人は本当は平和が大好きなのに。

坂西 一部の人たちの「欲」で悲劇が生まれている。憤りしかない。PHD協会のPは「平和」。武器ではなく、人づくり、草の根連帯で対抗したい。

上から、
寒さが苦手でもいち早く冬の装いになった順。



2023年度研修生 帰国報告会のご案内

下記のとおり2023年度研修生たちの帰国報告会を行う予定です。1年の学びや、地域に戻ってからの活動計画などを発表させていただきます。お問い合わせの上、ご参加ください。

日時：2024年3月2日（土）
14：00～16：30（予定）
場所：JR新長田駅周辺
参加費：無料

◆お問い合わせはPHD協会まで◆
TEL：078-414-7750
E-mail：info@phd-kobe.org

